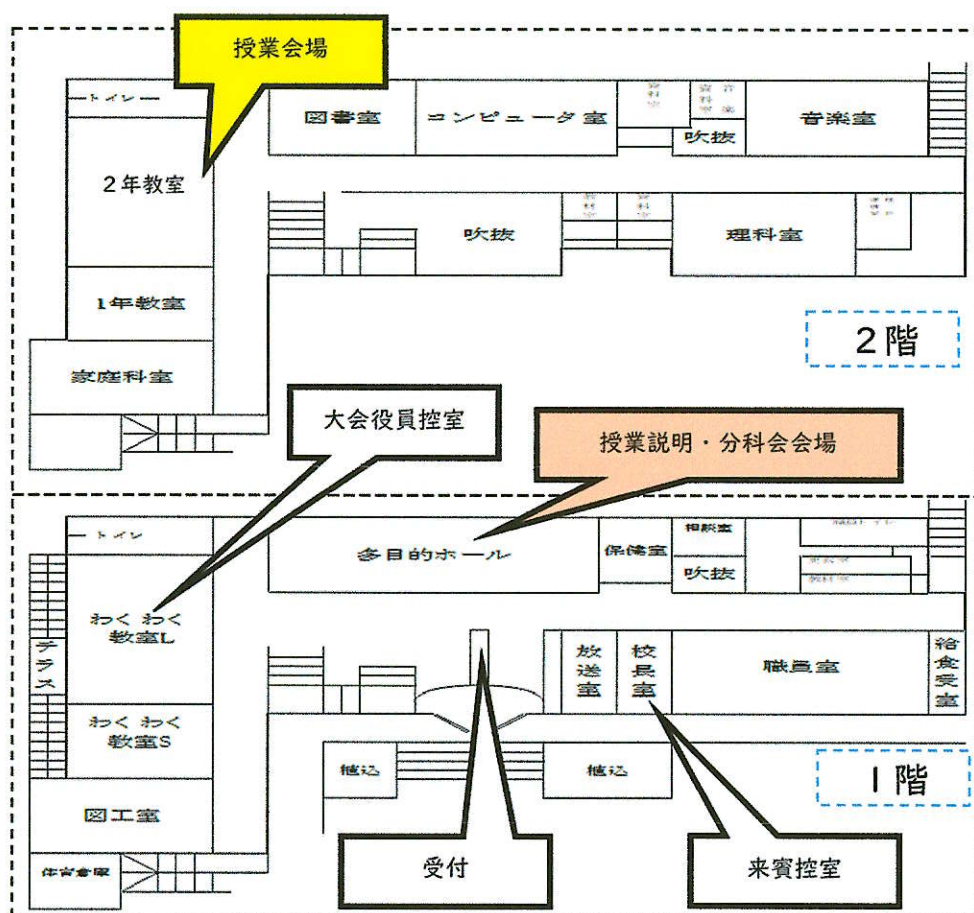


美川小学校

研究主題

自ら考え、ともに生き生きと伝え合う子どもの育成
～交流学习やふるさと学習の実践を通して～



第1・2学年 道徳科学習指導案（3校集合学習）

指導者 河口 佳代
板崎 良平
上本 恵里（仕七川小）
小松 竜大（柳谷小）

- 1 日時・場所 令和7年10月31日（金）9：50～10：35 2年教室
- 2 主題名 動植物を大切にしよう（D（18）自然愛護）
- 3 ねらい・教材 身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で接しようとする心情を育てる。

「たからものだね久万のしぜん」（「愛」ある愛媛の道徳）

4 主題設定の理由

- 本授業は、仕七川小（4名）、柳谷小（3名）、美川小（2名）の9名の児童（1年生5名、2年生4名）で学習する集合学習である。児童は入学前から、幼稚園で交流しており、2年生は昨年度3回集まってレクリエーションや授業、町探検などの交流を行った。昨年度の各活動については、楽しく意義があったが、単発的であったという反省も残った。

今回、3校で学習することにより、普段よりも多い人数での意見交流が期待できる。しかし、2学年合同のため、個人差が大きく、学習内容や友達の意見の理解が難しい児童も出てくると思われる。そのため、理解しやすい教材の提示や板書、発問などの工夫が必要である。

久万高原町は自然豊かであり、身近に自然を感じることでできる地域である。自然に関するアンケートでは、生き物や植物などが好きだと答えている児童が多い。しかし、嫌いと答える児童もおり、理由としてハチ、ヘビ、植物のとげなどのマイナスイメージを挙げていた。動物を飼っている児童の中には、犬や猫だけでなく、トカゲやイモリ、ダンゴムシ、カエルなど身近な生き物を採集して飼っている児童も6名いた。休日には家の中でゲームや動画などの視聴をして過ごす児童が多かった。豊かな自然の中にも安全面の制約などもあり、自由に自然に関わっているわけではないことがうかがわれる。それに対して、休日に戸外で過ごすという児童3名は、どこに生き物がいるか、どのようにすれば捕まえることができるかを知っており、交流で行った生活科の自然観察の時間には生き生きと活動できていた。同じ町内に住んでいても、実情は様々であり、共通の自然体験の場の設定が必要である。

質 問	回 答
生き物（動物や虫など）は好きですか？	好き 8名 嫌い 1名
木や花は好きですか？	好き 8名 嫌い 1名
動物を飼ったことがありますか？	ある 7名 ない 2名
木や花を育てたことがありますか？	ある 9名
休みの日は、外と中どちらで遊ぶことが多いですか？	外 1名 半々 2名 中 6名

<アンケート 令和7年5月実施 児童数9名>

- 本時にねらう指導内容は、身近な自然に親しみ、自分を取り巻く自然環境を大切にしたり、動植物に優しい心で接したりすることである。自分の身の回りにいる動植物は自分と一緒に生きているということを感じ取らせるために、動植物とじかに触れ合う体験を通して実感を持って理解させたい内容である。

本教材は、町内にある面河山岳博物館の学芸員と探検をした際に出会った、この地域特有の様々な動植物との出会いを写真で物語るものである。児童が住む地域の動植物や施設、人が出てくるため、教材と同様に実際に関わることができ、興味を持って学習できるものである。そして、児童がふるさとの自然のよさに気付き、将来、環境の保全について考え、持続可能な社会を目指す土台となる学習であると考えている。

- 本時の学習を行うにあたり、事前に3校合同での集合学習で自然体験を行った。共通の経験をすることで、動植物に対する思いを持ち、伝え合ったり、認め合ったりしやすくなると考えたからである。また、学びや思いをつなげていくことができる縦断的・横断的な学習を進めていくことが、児童の主体的な学習へつながると考え、生活科の学習と関連付けて継続的に学習することにした。

本時の導入では、これまでの一連の活動を写真で想起させ、自然探検隊の気分を盛り上げて久しぶりに一緒に学習する垣根を取り払う。その後、町の宝を探す探検隊となって教材の動植物の写真を見たり、ゲストティーチャーの面河山岳博物館の学芸員の補足説明を聞いたりする。見たり、聞いたりしたものの中で児童が一番気に入ったものについて、その理由を一人ずつ発表する中で、この町の自然についてまとめていく。それらを受け、自然と仲良くするには、どんな気持ちが必要か、それぞれの思いを伝え合わせたい。終末は、学習のまとめとしてゲストティーチャーから久万高原町の自然のよさや自然を大切にするために私たちにできることを聞き、分かったことや思ったことを伝え合う。そして、今までの写真を見ながら、「自然探検隊」の学習に余韻を持たせて終えたい。

4人の担任は、児童の評価の視点や支援方法を共有し、多面的な評価や個に応じた丁寧な支援を目指す。

5 「しぜんたんけんたい」学習計画

	時期・場所	活動内容	ねらい	留意点
1	5月15日 面河山岳博物館と周辺 生活科 4時間	しぜんたんけんたいのメンバーになろう ・博物館の見学 ・自然散策	○ 公共施設のよさを感じる。 ○ 動植物を安全に気を付けて観察し、特徴や違いを見付けようとする。 ○ 自分の発見を友達に話したり、友達の発表を聞いたりする。	学芸員 町バス
2	6月5日 美川小 生活科 2時間	りくのいきものをみてみよう ・昆虫採集・観察	○ 身近な動植物を安全に気を付けて観察し、特徴や違いを見付けようとする。 ○ 自分の発見を友達に話したり、友達の発表を聞いたりする。	学芸員 町バス
3	6月26日 仕七川小 生活科 2時間	おもごがわのいきものをみてみよう ・水生生物の観察	○ 身近な動植物を安全に気を付けて観察し、特徴や違いを見付けようとする。 ○ 自分の発見を友達に話したり、友達の発表を聞いたりする。	学芸員 町バス
4	7月4日 美川小 生活科 20分間	みつけたしぜんのしょうかいパート1 ・それぞれが見つけた自然の紹介	○ 自分の発見を友達に話したり、友達の発表を聞いたりできるようにする。	川下4校 全校集合 学習 町バス
5	9月9日 オンライン 生活科 20分間	みつけたしぜんのしょうかいパート2 ・それぞれが見つけた自然の紹介	○ 自分の発見を友達に話したり、友達の発表を聞いたりできるようにする。	オンライン学習で
6	10月17日 けやき平 (柳谷地区) 生活科 4時間	やまのしぜんをみてみよう ・樹木の観察	○ 動植物を安全に気を付けて観察し、特徴や違いを見付ける。 ○ 自分の発見を友達に話したり、友達の発表を聞いたりする。	学芸員 町バス
7	10月31日 美川小 道徳科 1時間	たからものだね久万のしぜん <本時>	○ 身近な自然に親しみ、自然を大切にしようとする心情を育てる。	学芸員 町バス

6 本時の指導

学習活動	主な発問と予想される児童の反応	○指導上の留意点 ◆評価
1 自然探検の活動を振り返る。	○ 今までの自然探検隊の発見を見てみよう。 ・○○さんが、カエルを捕まえたね。 ・○○小のチョウの写真がすごかったね。	○ 写真やビデオを使って視覚的に思い出させる。
2 教材を読み、自然についての理解を深める。	○ この町にはどんなたからがあるのか、探検隊になって探してみよう。 ・ヤマネがかわいいな。 ・イシヅチオサムシの実物を見てみたいな。 ・この地域にだけ住んでいる生き物がいるんだね。 ・数が少なくなっている生き物もいるんだね。	○ 探検隊が教材の生き物を見つける設定で、内容を捉えさせる。 ○ 面河山岳博物館の学芸員からの補足説明を聞き、生き物の特徴をつかませる。必要に応じて標本なども提示する。
3 教材の動植物について話し合う。	○ 今日一番の発見を発表しよう。 ・かわいいから、モモンガが気に入ったよ。 ・この町の山の名前が入った花だからイシヅチボウフウを覚えておきたいな。 ・数が少ないから、守らないといけないね。	○ ロイロノートを使って、一人一人のお気に入りの生き物を紹介させ、理由も発表させることで生き物への思いをまとめていく。その中で自然を大切にすることに関連する言葉はカードに書いて示しておく。
しぜんと なかよくするには どんな きもちが たいせつかな。		
4 動植物に対する思いを話し合う。	○ 自然と仲良くするには、どんな気持ちが必要かな。 ・飼うときは、えさをきちんとあげて、飼えない生き物は捕まえてもすぐに逃がす。 ・木や花に水をあげる。 ・もっといろいろな生き物と出会って、仲良くなる。 ・生き物や草花にも命があることを忘れない。	○ 必要に応じて、今まで出会った動植物の写真を提示する。 ○ 意見が出にくいときは、グループで話し合い、それを全体で共有する。
5 学芸員の話聞き、自分の町の自然のすばらしさとそれを大切にすることの意義を知る。	○ 山岳博物館の先生から生き物を大切にすることについてお話を聞き、分かったことや思ったことを言いましよう。 ・花や木を大切に育てたいね。 ・生き物を大切に飼いたいな。 ・これからもいろいろな生き物のことを知りたいな。 ・この町の自然はすごいんだね。 ・学芸員さん、たくさん教えてくれてありがとう。	○ 学芸員から久万高原町の自然のよさや自然を守るために私たちにできることを聞き、自然を大切にすることへの興味を高める。 ◆ 動植物に優しい心で接しようとする心情が育ったか。(発言・観察) ○ 今までの探検隊の写真を見せ、自然への思いを振り返りながら学習を終える。

7 研究の視点

- 他校と交流することで、ともに生き生きと伝え合う場づくりができたか。
- 学びをつなげた単元構成を工夫することで、学習への意欲が高まったか。
- 地域の自然を題材にすることは、久万高原町のよさに気づき、ふるさとを大切にしたいという思いにつながったか。